



国立大学法人

群馬大学

GUNMA UNIVERSITY

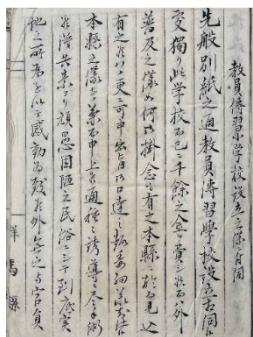
**学長会見資料**  
**(2023.11.7)**

# 本日の会見内容

- 1 群馬大学創基150周年記念事業
- 2 文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」に認定  
【医療安全教育手法に基づく多職種人材育成共同利用拠点】
- 3 新たな大学院の設置  
情報学研究科（修士）・パブリックヘルス学環（修士）・  
医理工イノベーションサイエンス学環（修士）の設置  
食健康科学研究科（構想中）

# 1 群馬大学創基150周年記念事業

群馬大学は令和5年（2023年）をもちまして、  
本学の起源とする「小学校教員伝習所」設立から  
150年を迎えました。



**1873年**  
小学校教員伝習所創設  
(現 共同教育学部の起源)



**1949年**  
群馬大学開学



**2004年**  
国立大学法人化

# 11月25日（土） 26日（日） 記念式典・記念事業を開催予定 荒牧キャンパスで荒牧祭（学園祭）と同時開催

11月25日（土）	13:15～16:00	創基150周年記念式典 第1部 式典 13:15～14:20 第2部 記念講演 14:30～16:00
	10:00～17:30	荒牧祭(学園祭)第1日目
11月26日（日）	10:00～11:00	ベストティーチャー賞 表彰式・公開模擬授業
	11:00～12:00	ディスティングイッシュト・ヤングリサーチャー 称号授与・記念講演
	12:00～13:00	学生企画「みんな集まれコミュニティカフェ」
	13:00～14:00	学生企画「群大卒業生によるトークセッション」 講演者:群馬クレインサンダーズ代表取締役社長 阿久澤毅さん
	14:00～16:00	シンポジウム「変革の時代の大学 ～産・学・官で考えるこれからの教育とDX～」
	10:00～16:30	荒牧祭(学園祭)第2日目

※別紙チラシのとおり、一般の方も参加可能だが、事前申し込みが必要なイベントあり。

## 2 文部科学大臣から

### 「教育関係共同利用拠点」に認定

#### 【医療安全教育手法に基づく多職種人材育成共同利用拠点】

- 群馬大学が教職員一丸となって医療安全改革に取り組んできたことが文部科学省から高く評価
- 日本で唯一の医療安全教育手法に関する「教育関係共同利用拠点」に認定
- 令和6年にキックオフシンポジウムを開催予定（詳細はHPで告知）

「教育関係共同利用拠点」の認定制度とは、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくため、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくために、文部科学大臣が全国の大学から活動の拠点となる大学を認定するもの。

本学では生体調節研究所が「研究」に関する共同利用・共同研究拠点として2010年度から認定を受けており、「教育」と「研究」の両輪の拠点事業を通じて、いっそうの教育研究を充実。

# 多職種人材育成のための医療安全教育センター

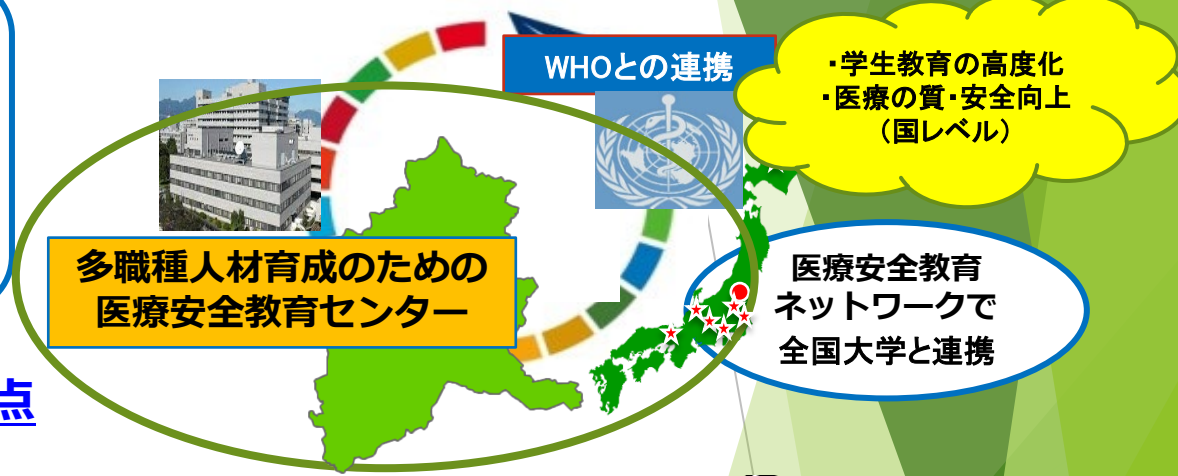
## ＜医療安全教育手法に基づく多職種人材育成共同利用拠点＞

医療、保健、介護、福祉など多職種人材育成のための医療安全教育の拠点となり、誰もが快適で活力に満ちた人間中心の社会（Society 5.0）を実現する

日本を世界で最も発展した医療安全教育が充実した国にする

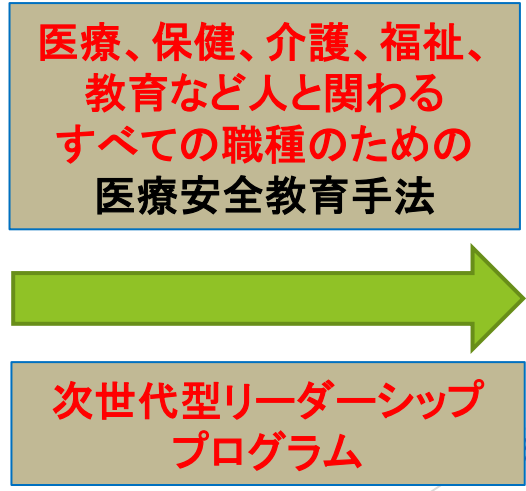
### 【必要性】

- 医療安全:** 医療安全は国際的な重要事項である。  
WHOは安全カリキュラムの普及と教育拠点要請
- 教育:** 医療安全は多職種連携が必要だが、教育が職種間で分断  
医療安全教育は非医療安全専門家が関わる
- 社会:** 多職種で関わるSociety 5.0の人間中心の考え方の必要性



### 全医療職の養成機関のハブとなる教育共同利用拠点

- 医療安全教育手法の国際的な知見を収集・統合**
  - ・WHO患者安全カリキュラム(現在改訂中)の最新情報
  - ・毎月100本以上出版される医療安全原著論文の情報
- 医療安全教育コンテンツの開発と共有**
  - ・リーダーシップ、チームワーク、質改善
- 医療安全教育手法の開発と共有**
  - ・講義形式だけではないアクティブラーニング、オンライン学習
- 多職種の医療安全教育のネットワーク形成**
  - ・オンラインは物理的に離れた教育機関・学科間の合同演習を可能にする



### 3 新たな大学院の設置

情報学研究科（修士）・パブリックヘルス学環（修士）・  
医理工レギュラトリーサイエンス学環（修士）の設置  
食健康科学研究科（構想中）

群馬大学教育研究組織再編の歩み

第5期 令和6～10年度

第4期 令和2～4年度

大学院再編を  
通じた機能強化

地球規模の多様な  
ニーズに応える  
大学へ

- ・ 情報学研究科
- ・ パブリックヘルス学環
- ・ 医理工レギュラトリーサイエンス学環
- ・ 食健康科学研究科（設置構想中）

第3期

学部再編を  
通じた機能強化

- ・ 共同教育学部
- ・ 情報学部
- ・ 理工学部（学類に改組）

- 高度専門人材の育成
- 分野横断による社会課題解決機能の強化

平成28～29年度

- 本学が有する学術領域の強化
- 魅力ある教育提供

センター活動を  
通じた機能強化

- ・ 数理データ科学教育研究センター
- ・ 食健康科学教育研究センター
- ・ 次世代モビリティ社会実装研究センター

- 異分野融合型の教育研究環境の形成  
（既存組織を活かしたフレキシブルな対応）
- 社会実装機能の強化

# 3. 新たな大学院の設置

## <改革年表>

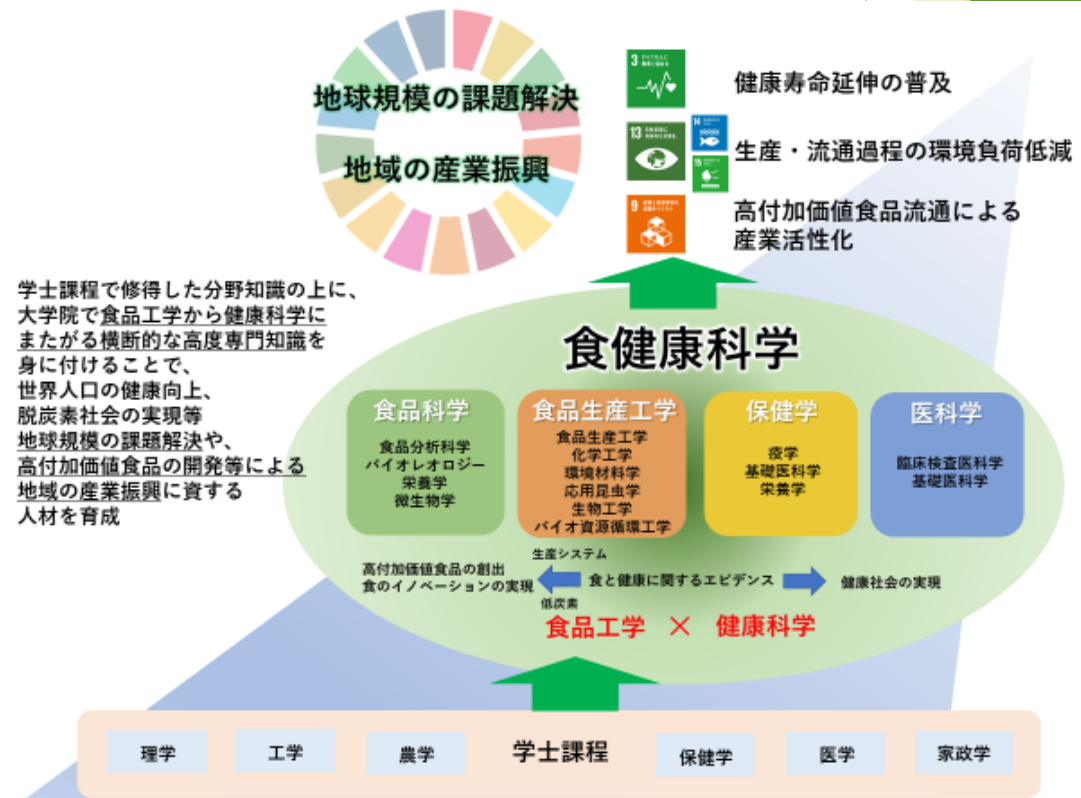
第3期 中期目標・中期計画期間						第4期						第5期
2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
次世代モビリティ社会実装研究センター 設置												
数理データ科学教育研究センター 設置												
食健康科学教育研究センター 設置												
教育学部						共同教育学部 設置 (宇都宮大学と共同)						
社会情報学部／情報学部						情報学部 設置						
医学部	医療安全講座の設置											
理工学部						理工学部 改組・機能強化						
教育学研究科						教職大学院改組・拡充						
社会情報学研究科／情報学研究科								情報学研究科 (修士)		情報学研究科 (博士)		
保健学研究科								パブリックヘルス学環 (修士)		パブリックヘルス学環 (博士)		
医学系研究科								医理工レギュラトリーサイエンス学環 (修士)		医理工レギュラトリーサイエンス学環 (博士)		
理工学府						設置が決定した組織						
食健康科学研究科										食健康科学研究科 (修士・博士)		
						設置構想中の組織						



- 超高齢社会において、平均寿命とともに平均健康寿命が延びる中、生活習慣病など健康寿命を損なう疾患の発生が増え、医療や福祉などの問題に対応することが喫緊の課題となっている。
- 食は人に健康をもたらすものであるだけでなく、地球規模の環境負荷及びエネルギー等の課題に関係しているため、食の健康への機能性に関するエビデンスベースでの評価や高付加価値かつ低炭素な生産システムへの取組がますます期待されている。

## ＜食健康科学研究科の特色＞

- ✓ 食と健康の関係性を科学的に解明することが可能となる。
- ✓ 食品工学、食品生産工学、医科学、保健学を基盤として、食と健康に関する高度な専門的科学的リテラシーを持つ人材を育成する。
- ✓ 地域食品産業の課題解決と持続可能な食による地域活性化と未来社会創造に貢献する専門家を育成する。
- ✓ 内分泌代謝学に関する国内唯一の生体調節研究所及び生活習慣病解析センターとの連携により、生活習慣病に関する基礎医学研究を進めることができる。



- **Society5.0の実現には、情報技術の進化と多様な分野での利活用が不可欠**  
(新型コロナウイルス感染症を契機として、テレワークなど情報技術の適切な活用により新しい働き方や生き方を  
実現できることが証明された。)
- **情報技術が社会にもたらす影響を正と負の両面で理解し、調和のとれた人間中心で持続  
可能な新たな社会を実現するために、情報化の在り方全体を情報学として模索する必要  
がある。**

## ＜情報学研究科の特色＞

- ✓ 情報学部で修得したスキルや知識をさらに高め、先端的かつ実践的な場面で活用する能力を養う。
- ✓ 自然科学と人文・社会科学の融合により、総合的な知識と理解を追求し、人間や社会の理解と課題解決に貢献する新しい情報学の発展を図る。
- ✓ ソフトウェア・セキュリティエンジニア、データサイエンティスト、デザイナー、ソーシャルアーキテクト、リサーチャー  
(リサーチャー：他の人材類型の専門性を深め、研究・開発を担当する人材) など、多様な人材類型の育成に取り組む。



## 新型コロナウイルス感染症により必要性がクローズアップ

新型コロナウイルス感染症の蔓延を契機に、保健所や保健行政の重要性が再認識され、公衆衛生への投資や専門知識を持った人材の必要性が浮き彫りになった。

- **パブリックヘルスマインド (Public Health mind) を修得した人材の投入が必要。**
- **群馬県だけでなく近隣の埼玉県・栃木県においても大学院の公衆衛生学コースが設置されている国公立大学はない。**

## ＜パブリックヘルス学環の特色＞

- ✓ 公衆衛生における集団を対象とした予防、病気の予測、予知の研究を行うことが可能となる。
- ✓ 健康の格差を是正するための組織的な活動に寄与する最先端研究や、公衆衛生の両輪である実践と研究のいずれの分野でも活躍できる卓越した能力を持った人材を育成。
- ✓ 生物統計学やマネジメント力の磨きを通じて、公衆衛生の専門家として必要な知識、技能、課題解決力を身につけた高度専門家を育成。



医科学

保健学



公衆衛生大学院  
プログラム校連絡会議

教育の質の担保

### 社会健康医学プログラム

- ✓ 公衆衛生学  
疫学、医療統計学、社会行動科学、  
保健政策/医療管理学、産業環境保健学

### パブリックヘルス学環

- ✓ 英語・コミュニケーションスキル
- ✓ レギュラトリーサイエンス
- ✓ データサイエンス（情報学研究科と連携）

- ✓ 医学
- ✓ 保健学
- ✓ ゲノム医科学

## レギュラトリーサイエンス：

科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学

- 重粒子線医理工学による**メディカルイノベーション**への貢献が期待されている。
- 重粒子線治療における省電力・小型の**第5世代加速器**の開発が始まっている。
- 本学は、**2010年より国内初の重粒子線がん治療**を開始し、重粒子線医理工連携コースにおける放射線による影響や体内埋め込み電子機器の研究においても**先駆的な存在**となっている。

## <医理工レギュラトリーサイエンス学環の特色>

- ✓ 医療技術や医療機器の実装において必要な学理を理解し、科学的・俯瞰的な視点で研究することができる。
- ✓ 医学物理学と放射線生物学のシームレスな研究の発展を図り、レギュラトリーサイエンスの視点から放射線影響や防護のエキスパートを育成する。
- ✓ レギュラトリーサイエンスを視点とした医学物理学や放射線生物学の専門知識を持つ人材の育成は、原子力・核融合分野における人材育成にも貢献する。



理工学

医科学



### 重粒子線医理工学プログラム

- ✓ 生物化学、電気電子工学  
制御工学、情報工学等

### 医理工レギュラトリーサイエンス学環

- ✓ 放射線生物学、  
重粒子線医理工連携特論等

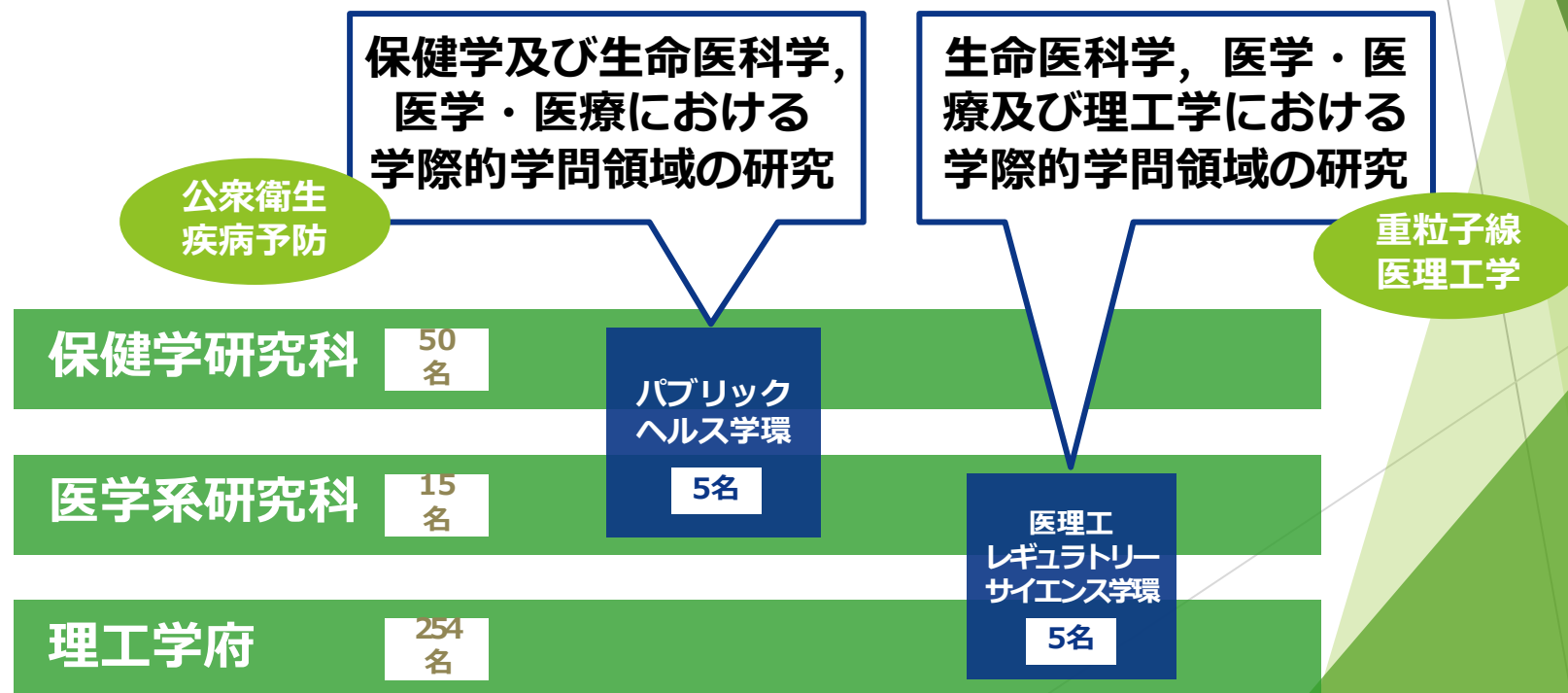
- ✓ 解剖学、病理学、生理学、  
生化学、腫瘍学、核医学等

# 学環の仕組み

- ✓ 学内全体の多様な専門・学術の教育研究資源を広く活用するために、学生が、自分の研究に必要な文理の知識を各大学院の授業の中から自由に組み合わせて履修することができる組織形態



## 研究科横断的な教育・研究の仕組み



※人数は入学定員。学環は内数。